Ⅲ　指導計画（小学校）

１　子どもの実態

本学級は，明るく活発な子どもが多くいるが，自分の思いばかりを主張してしまう子どもも見られる。そこで，４年生になってからは，できるだけ自分たちで考え，話し合い，行動ができるように関わってきた。「友達を思いやる４年２組」という，自分たちで考えた学級目標の実現に向け，自分には何ができるかということを意識しながら過ごしていけるように，継続した指導を行っている。

話合い活動では，それぞれの考えを聞くことができるものの，考えの広がりが少ない。また，自分の考えに自信がなく，発言することに高いハードルを感じてしまう子もいる。そのため，日頃の学習活動において答えやすい発問をしたり，挙手などで考えを表現させたりするなどの取組を行っている。

２　研究に関わる指導計画

指導時期	教科・領域	活　動　内　容
年間を通して	帰りの会	「今日の MVP」を日直が発表する。
４月初旬	学級活動	学級目標をきめよう。
４月下旬	学級活動	学級目標を実施するために,「自分が必ずすること」,「自分がこれからやっていきたいこと」を考える。
８月下旬	学級活動	１学期に決めた学級目標について，自分がやっていくことについての反省を行う。 ２学期前半の「自分が必ずすること」,「自分がこれからやっていきたいこと」を考える。
９月上旬	学級活動	よりよい聴き方を考えよう（授業実践１）
９月下旬	学級活動	９月の授業実践１で考えた聴き方の３つの中から，まず自分が気を付けていきたいものを決定する。 個人目標（学習面・生活面）について，自分の反省とペアの友達に励ますコメントを書き合う活動を行う。
10 月中旬～	帰りの会や授業の残り時間	「がんばっているねカード」を書く活動を行う。
10 月末	学級活動	個人目標（学習面・生活面）について自分の反省とペアの友達に励ますコメントを書き合う活動を行う。
11 月中旬	学級活動	学級目標のふり返り（授業実践２）

３　指導計画の理由

第３学年から日々の学習や多くの行事を通して，お互いのよさや特徴などを少しずつ理解することができるようになってきた。次の段階として,「自分たちで人間関係を創っていくよさ」を感じられることを目指し，学級全体で成長できるようにしたいと考えている。

第４学年では，子どもたちが「友達を思いやる４年２組」という学級目標を掲げた。この学級目標を達成し，子どもたちで高め合っていけるようになるために，お互いの「よいところ」を伝え合っていくことができるようにしたいと考えている。そうすることで，学級の雰囲気がよくなり，更に高め合っていくという好循環になっていくと考えたため，このような指導計画を立てた。

４　授業実践１

ねらい　・　お互いに相手の様子を見たり，分からないことは質問したりすることによって，対話がしやすいことに気付くことができる。

指導過程	子どもの活動　中心発問（◎）	指導上の留意点（□）　評価（☆）
導入《つかむ》	**前時の振り返りを行い，本時では「よりよい聴き方」について考えることを確認**	
	○　学級についてのアンケート結果を振り返り，学級の課題を再確認した上で，本時の学習内容をつかむ。	□　学級の課題を解決するために，まずよりよい聴き方を学ぶことを確認する。
《さぐる》展開《見付ける》	**会話のキャッチボールに取り組もう。**	
	○　自分が描かせたい絵を，次の方法で友達に描かせる。 １　背中合わせで質問なし ２　背中合わせで質問しながら ３　向かい合って質問しながら	□　ルールの説明は出来るだけ短く簡潔に行う。 □　活動してみてどう感じたかを覚えておくように事前に指示する。
	聴き手として大切なことは何かを考えてみよう。（取組後の交流）	
	○　聴き手として大切なことを考える。	□　個人の意見は，板書して共有する。
終末《決める》	**今日の活動を通してこれから意識していく目標を決めよう。**	
	◎　学級の課題を解決するために聴き手スキルをどう生かすかを決定する。 ○　自己決定した内容を交流する。	☆　本時で学んだ聴き方をこれからの生活でどう生かすか具体的に考えている。 □　発表された意見を認め，よりよくしようとする雰囲気をつくる。

５　授業実践２

ねらい　・　学級目標の振り返りを通して，学級目標の実現のために何ができるかを友達と考え，よりよい学級づくりに積極的に参加できるようになる。

指導過程	子どもの活動　中心発問（◎）	指導上の留意点（□）　評価（☆）
導入《つかむ》	**８月・11 月に実施したアンケートを振り返り，今のクラスの課題を確認する。**	
	○　アンケート結果を振り返り，学級の課題を再確認した上で，学習内容をつかむ。	□　アンケート６・７の内容の数値が上がっているかについて触れる。
《さぐる》展開《見付ける》	**２学期後半の行動目標を考えよう。**	
	○　普段の生活の中で友達の頑張っているところを書いたシートを見る。友達からのメッセージを読んで，自分では認識していない長所に気付いたことや感じたことをワークシートに書く。 ○　ワークシートに書いた内容を交流する。	□　配布するときには個人ごとに封筒に入れるなど周りに見えない工夫をする。 □　９月に学んだ聴き方を生かして行うことを確認する。
終末《決める》	**２学期後半の行動目標を決めよう。**	
	◎　今までの反省，中間報告に対する友達のアドバイスを基に，２学期後半の行動目標を決める。 ○　自己決定した内容を交流する。	☆　今までの反省や，友達のアドバイスを基に，具体的に考えている。 □　発表された意見を認め，よりよくしようとする雰囲気をつくる。

Ⅲ　指導計画（中学校）

１　子どもの実態

本学級の子どもは，日頃の学校生活や，体育祭，野外炊飯学習などの行事を経験する中で，男女仲良く，良好な人間関係を築いてきた。総体的に見て，明るく活発で元気のよい雰囲気がある。反面，授業では自分勝手な発言が目立ったり，メリハリをつけることができなかったりするなど，聞くことに集中する点に課題がある。

また，子ども同士のコミュニケーションを観察すると，相手の表情や態度から心情を読み取っておもんばかることができたり，楽しい雰囲気を盛り上げるようと相手に合わせたりする様子が見られる。反面，言葉で相手の気持ちをより深く理解したり，自分の思いを正確に伝えたりすることには課題がある。

子どもたちは大変素直で，教師の指導を聞き入れ，自分たちの課題を受け止めることができている。聴いたり話したりすることでより深いコミュニケーションを図ることの価値を伝え，そのよさや必要性を活動の中で実感できる授業づくりを目指す。そして，授業を通して，安心して互いのよさを発揮し合い，認め合える学級集団に近づきたいと考えている。

２　研究に関わる指導計画

指導時期	教科・領域	活　動　内　容
年間を通して	帰りの会	日直が「今日のありがとう」のコーナーで，クラスや仲間のために行ったことを発表する。
４月初旬	学活	学級目標についての話合いを行い，個人目標の記入を行う。
４月中旬	学活	ペアコミュニケーション（全員と１対１で話す）を行う。
10 月初旬	国語	オープンクエスチョンなど傾聴態度についてのテクニックを学ぶ。
10 月初旬	学活	オープンクエスチョンで相手のためになる聴き方を練習しよう。（授業実践１）
10 月初旬	学活	後期個人目標の記入を行う。
11 月中旬	国語	ファシリテーターになるために，話合い活動の方法について学ぶ。
11 月中旬	学活	ワンチームを目指してプロジェクト・アドベンチャー（PA）の手法を生かして～（授業実践２）

３　指導計画の理由

本学級の子ども一人一人や学級集団を高めるために，「聴く力」を高めることが必須であると考える。ただし，「聴く力」と言っても場面や目的，相手によって求められる聴き方は変わってくる。聴く技術を身に付けることが，友達の心に寄り添い，相手から感謝される体験となる。また，そのことが一人一人の自己有用感を高め，今後の人生でよりよい人間関係を築くための一助となる。

居心地の良い学級をつくるために必要なことが分かるようになり，それを学校生活で進んで実践しようとする意欲を高めることを目指し，授業を構想した。

４　授業実践１

ねらい　・質問方法を身に付けることによって，より深く聴き合える関係を育む。

指導過程	子どもの活動　中心発問（◎）	指導上の留意点（□）　評価（☆）
導入《つかむ》	**傾聴スキルを振り返り，さらに「相手のためになる質問とは」を考える。**	
	○　本時では１対１の場面で，質問を通してさらにコミュニケーションを深める方法を学ぶことを確認する。	□　どの聴く場面でも相づちやうなずき，目線などの聴き方が大切であることを確認する。
《さぐる》展開《見付ける》	○　悩んでいることや迷っていることを考え，キーワードをワークシートに書く。	□　クラスメートに聞いてほしい学習面や生活面の話題を思い浮かべるよう促す。
	オープンクエスチョンで相手のためになる聴き方を練習しよう。	
	１　聞き手と話し手を決め，３分間話す ２　役割を交代して３分間話す ３　自らの聴き方を振り返る ４　聴いてくれた相手にメッセージを書く ○ペアを変えて，上記の１～４を行う。	□聴き方の大切さを確認する。
	聴き手として大切なことは何かを考えてみよう。（取組後の交流）	
	○　聴き手として大切なことを考える。	
終末《決める》	**今日の活動を通して，これから意識していく目標を決めよう。**	
	◎　本時で学んだ聴き方スキルをどう生かすかを決定する。 ○　自己決定した内容を交流する。	☆　本時で学んだ問いかけスキルをこれからの生活でどう生かすかを具体的に考えている。

５　授業実践２

ねらい　・　今まで学習した聴き合いスキルを生かし，協力してグループで困難を乗り越えていく活動を通して，より友達について知り，よりよい人間関係づくりを目指そうとする。

指導過程	子どもの活動　中心発問（◎）	指導上の留意点（□）　評価（☆）
導入《つかむ》	**ＰＡを通して、居心地のよい学級づくりについて考えよう。**	
	○ＰＡの概要や目的について知り，本時の目標を明確にする。	□スライドを利用し，PA について短時間で説明する。 □「マシュマロリバー」のルールを説明する。
《さぐる》展開《見付ける》	**「マシュマロリバー」に挑戦しよう。**	
	○男女別で 15 分間アクティビティに取り組む。	
	活動を振り返ろう。～ワンチームになるために必要なことは？～	
	○個人思考で振り返る。 ○４人グループを作り，10 分間で活動の振り返りを行う。 ○グループごとに話し合った内容を発表する。	□１０月に学んだ聴き合いスキルを生かして行うことを確認しておく。
終末《決める》	**今日の活動をどう生かしていくかを，具体的に決めよう。**	
	◎　本日の活動の振り返りを基に，２学期後半の行動目標を決める。 ○　自己決定した内容を交流する。	☆本日の振り返りを基に，これからの生活でどう生かすかを具体的に考えている。 □発表された意見を認め，より良くしようとする雰囲気をつくる。

Ⅳ　授業実践

１　聴き合い

（１）問いかけスキル

小学校

（授業実践１）よりよい聴き方を考えよう

〈活動の手順〉

学級のアンケート（64 ページ参照）結果から「よりよい聴き方」について考える。

↓

言葉のキャッチボールで聴き方の練習を行う。

【手順】

自分が描かせたい絵を，次の方法で友達に描かせる。

１　背中合わせで質問なし

２　背中合わせで質問しながら

３　向かい合って質問しながら

↓

背中合わせや向かい合わせで質問してみてどう感じたかについて，活動を振り返りながら考える。

↓

本日の活動を通して，これから意識していく目標を決める。

↓

目標を発表させ，共有する。

【背中合わせでの活動風景】

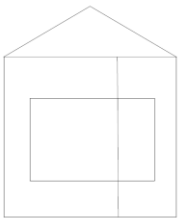
探検バックなどを使用すると，書きやすい。

【向かい合わせでの活動風景】

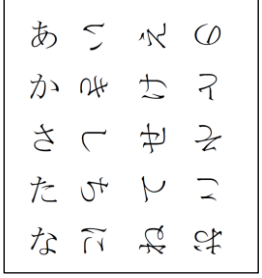
【学級活動のポイントは「決める」】

授業中の活動により気づいたことを基に，自分の行動を「決める」ことが大切。

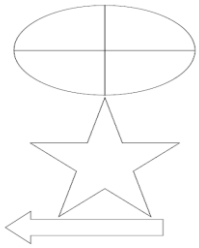
お題の絵１



お題の絵２



お題の絵３



※　この活動では，描かせる絵によって活動の難易度も変わります。学級の実態に応じたレベルの選択も大切である。

中学校

（授業実践１）オープンクエスチョンを身に付けよう

〈活動の手順〉

【前時までの準備】
　国語の時間に，オープンクエスチョンなどのテクニックなどの学習を行う。

↓

　悩んでいることや迷っていることを考え，キーワードをワークシートに書く。

↓

　オープンクエスチョンで相手のためになる聴き方の練習を行う。

【手順】
1　聞き手と話し手を決め，３分間ペアで話す。
2　役割を交代して３分間話す。
3　自らの聴き方を振り返る。
4　聴いてくれた相手にメッセージを書く。

↓

　ペアの活動を実際にやってみて，相手のためになる聴き手として大切なことは何かを考える。

↓

　本日の活動を通して，これから意識していく目標を決める。

↓

　目標を発表させ，共有する。

【考える時間を確保】
　学級活動では，「活動あって学びなし」とならないように，時間配分を事前に計画することが大切である。

聴く力を高めるテクニック

オープン・クエスチョンの例	あいづちの例
1　～というと？	1　うんうん
2　どんな感じ？	2　なるほど、なるほど
3　もう少しくわしく教えてください。	3　わかる、わかる
4　例えば？	4　そうなんだぁ
5　具体的にどんな感じ？	5　へぇ
6　どんなイメージ？	6　だよねぇ
7　エピソードを教えてください。	7　それで、それで
8　ほかには？	8　そっかぁ

クローズド・クエスチョンの例
1　数量（日時、回数、価格など数字で表すこと）
2　固有名詞（名前、商品名、事業所名、場所などの特定情報）

自己選択、自己決定を問うときの例
1　どうしたい？
2　どうなったらいいと思う？
3　（選択肢の中から）どれと思う？

【授業で使用した資料】
　各教科での学習を特別活動で生かし，逆に特別活動での学びを教科に活用する，教科と領域の往還によって，効果を更に高めることができる。

【ペアでの活動風景】
　話題については，学級の人間関係により，内容を変えると効果が上がります。自己開示が難しい人間関係の場合には，学級の課題など，共通で話題にしやすい内容にすると話しやすくなる。

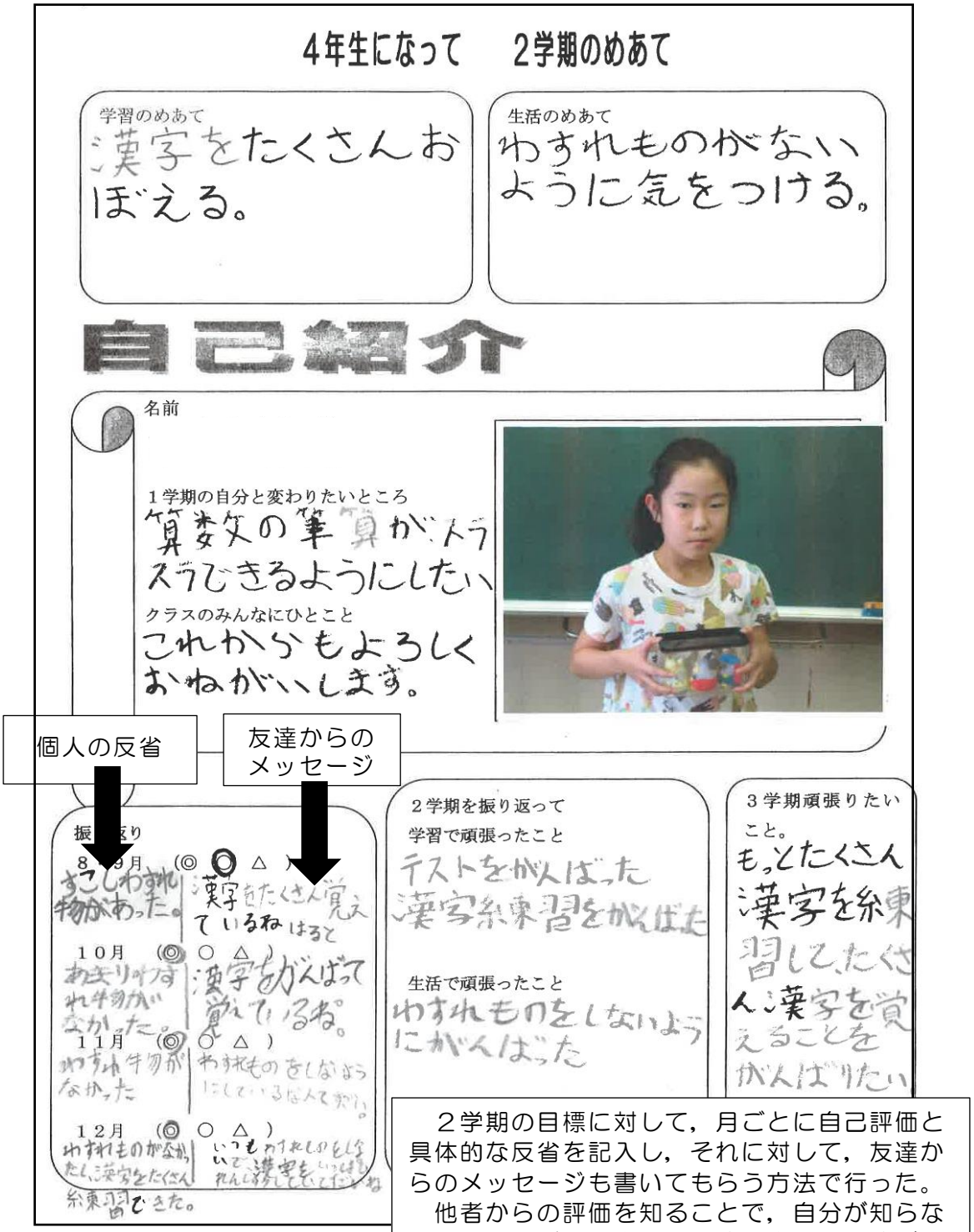
【考えの共有も重要】
　他者からの目を意識させることにより，子どもたちの行動の変容につながる。

（２）継続的な実践

小学校

① 目標の日常的な振り返りの設定

個人目標について，自分の行動がどうだったかを振り返る機会を毎月設けた。



２学期の目標に対して，月ごとに自己評価と具体的な反省を記入し，それに対して，友達からのメッセージも書いてもらう方法で行った。

他者からの評価を知ることで，自分が知らない長所に気づき，自己有用感や自己肯定感が高まることを目指した。

② 今日の MVP

自己有用感が高まる活動の一つとして，「今日の MVP」を行った。毎日の帰りの会で，その日に頑張っていた人の名前を挙げ，どのような点で頑張っていたかを述べる活動を行った。

中学校

① プロジェクト・アドベンチャー（PA）の活動

本研究では，年間を通じて，特別活動の時間を計画的に活用して．PA の活動を取り入れ，お互いのよさや関わり方を理解することができた。

（授業実践２）ワンチームになるために～PA の手法を生かして～

‹活動の手順›

学級の課題を共有し，本日行う PA の概要や目的を説明する。

↓

マシュマロリバーを行う。（PA）

【ルール】
チョコレートの川をマシュマロの浮島に乗って渡る。
1　浮島は人が乗っているときは動かない。
2　浮島は誰か触っていないと流される。
3　渡るときには全員が必ずつながっていなければならない。（手でも足でも）
4　川に触れたらアウト。全員最初から。
5　時間は 15 分。

↓

誰のどんな言動があったかをグループで活動の振り返りを行い，ワンチームになるためのポイントを探る。

↓

ワンチームになるために必要なことを単語で１人ずつ１枚の紙に書き，輪になって紙を見せ合い，全体で交流する。

↓

今日の活動をどう生かしていくかを具体的に決め，成長ノート（61 ページ参照）に記入する。

※　参考文献では，様々な PA の実践例を紹介している。PA の活動内容も様々で，教師が子どもたちに何を学ばせたいかにより，活動を選択できるのも長所である。

【前時の活動を評価する】
PA の活動中に，前時までに学んだ「聴き手スキル」や「問いかけスキル」が身に付いているかを評価することができる。

【グループ，全体での振り返り】

【成長ノートへの記入】
グループ，全体への振り返り→成長ノートへの記入が，この授業の最もポイントとなる場面です。活動に時間がかかる取組となりますので，時間配分の構想が非常に重要である。

② 「今日のありがとう」

帰りの会の時間に，１日を通して，学級のためや個人のための取組をした人を，取り上げる活動を行った。この活動で，継続的に友達のよさを共有することで，自己有用感や自己肯定感の高まりにつながると考えた。

【発表の様子】

２　変容の視覚化

小学校

①　目標の日常的な振り返りによる変容の視覚化

目標を日常的に振り返り，学級掲示をしておくことにより，お互いに見るなど，改善に向けて前向きに取り組めるような工夫を行った。

②　友達からのメッセージを通して，自分のよさを客観的に知る取組

（授業実践２）学級目標の振り返り

‹活動の手順›

【事前準備】
１　帰りの会の「今日の MVP」のコーナーの時間に，同じ班の仲間や，同じ係の仲間に向けてその子が頑張っているところを，メッセージとして書く。
２　担任は集まったシートを個人ごとに封筒に入れて分けておく。

↓

８月・11 月に行ったアンケート結果（64 ページ）の振り返りを行い，学級の課題をつかむ。

↓

事前準備で用意した封筒を，子どもに配布し，友達からのメッセージを確認させる。

↓

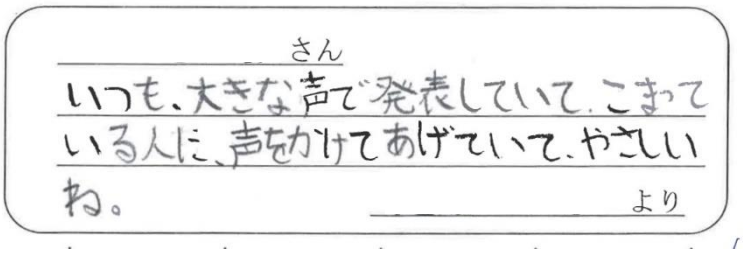
友達からのメッセージの内容を見て，自分が気づいていなかった長所に気付いてワークシートに記入し，隣の席の人と交流する。

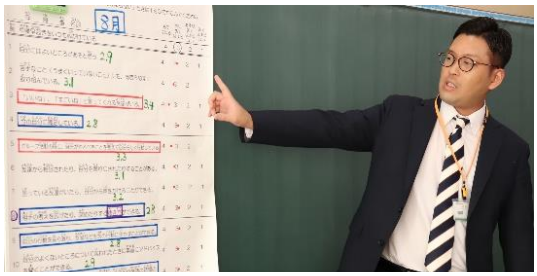
↓

友達からのメッセージで気づいたことを基に，２学期後半の行動目標を決める

↓

目標を発表させ，共有する。





【アンケートの継続の大切さ】
アンケートを定期的に実施することで，子どもたちの自己評価がどう変化したかは，自己実現の上で重要である。

【他者からの評価は気になる！】
他者からのよい評価は，教師が思っている以上に子どもたちは気にしていて，よい効果がある。

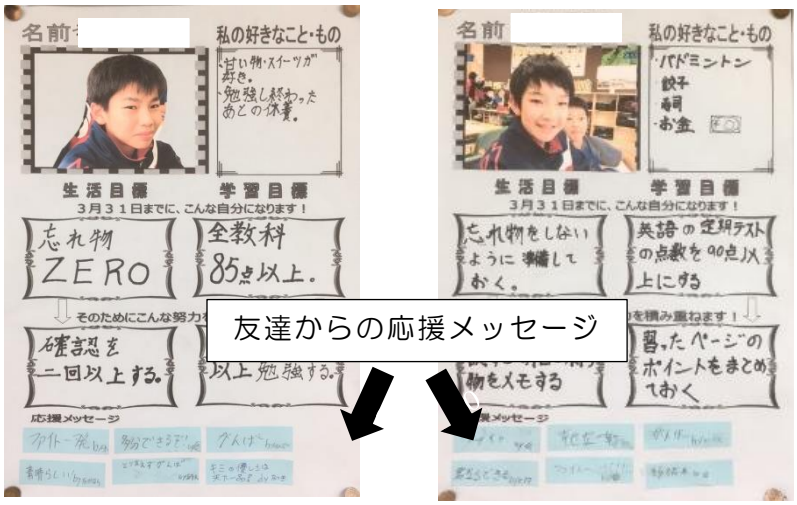
【机間指導による個への対応】
書くことが苦手な子どもへの配慮や，個別の声掛けが，子ども一人一人の思考を深める。

【友達からのメッセージ】
友達の人との関わり方や自分のよいところを知ることで，自己有用感や自己肯定感を高めることができる。

中学校

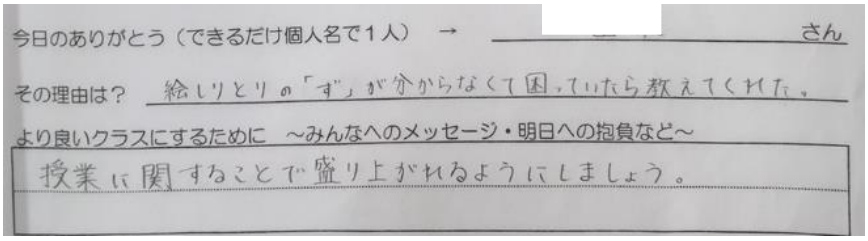
① 個人目標への応援メッセージ

個人目標に学級の仲間からメッセージをもらい，自分の成長を実現するために，前向きに取り組み，視覚化できるようにした。



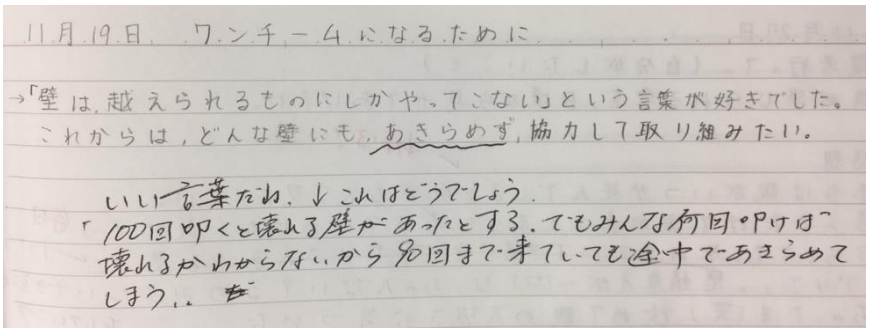
② 日直ノート

日直が記入する学級日誌に，頑張っていた人とその内容を挙げ，いつでも見返せるようにした。



③ 成長ノート

特別活動や特別の教科道徳で考えたことや自分の思いを記入するノートを使用した。記入後は，回収し，担任からのメッセージを書くなど，子どもとのやり取りを行った。



④ 行事の集合写真の掲示

行事のときに撮影した集合写真を時系列に掲示し，人間関係の深まりが視覚化できるようにした。